

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	親子関係向上のためのワークシートの開発に向けて				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部・教授	氏名	小林 佐知子
	研究分担者	所属・職名	静岡県教育委員会社会教育課・課長	氏名	藤ヶ谷 昌則
		所属・職名	静岡県教育委員会社会教育課・班長	氏名	長谷川 智美
		所属・職名	静岡県教育委員会社会教育課・主幹	氏名	増田 直功
		所属・職名	静岡県教育委員会社会教育課・主査	氏名	堀野 良介
		所属・職名	静岡県教育委員会社会教育課・主事	氏名	三ツ岡 市朗
	発表者	所属・職名	短期大学部・教授	氏名	小林 佐知子

講演題目

親子関係向上のための「親子つながるシート」の効果

研究の目的、成果及び今後の展望

【目的】

本研究は、静岡県教育委員会社会教育課と連携して親子関係を向上するためのワークシート（「親子つながるシート」）の開発を目的とした。親子つながるシートは「親子できたことノート」（永谷，2016；2021）をもとに発案され、シート上で行う短い会話を通じて親子関係を向上し、親子それぞれの自己肯定感を促進することをねらいとしている。令和4年度の静岡県家庭教育実態調査では、約8割の親が育児の悩みや不安をもち、その多くが「自分の子育てが正しいかどうか自信が持てない」と感じていることが指摘されている。こうした状況を背景に、本研究では親子つながるシートが子育ての自信を促進するかどうか、親側の効果について検討した。具体的には、小学生をもつ親を対象に、親子つながるシートが親の自己肯定感にどのように影響するのか、親子関係や育児不安等の影響と併せて事前・事後調査による効果検証を行った。

【成果】

はじめに「親子できたことノート」を参考に「親子つながるシート」を作成し、静岡県教育委員会学習方法改善委員会にて内容的妥当性を検討した。その後、小学1年生から3年生の子どもをもつ親に協力を依頼し、家庭でシートを2週間試行してもらった。また、親を対象に事前・事後で自己肯定感や親子関係、育児不安等について質問紙調査を実施した。その結果、親子つながるシートの実施前に比べて、実施後の方が親子関係や自己肯定感が高くなること、育児不安が低くなることが明らかになった。親子のコミュニケーション量（時間）は変化しなかったが、自由記述からは、子どもとのコミュニケーションが増えたという感想や、日頃の子育てを振り返ったり子どもの気持ちに気づいたりする機会になったという声が多くみられた。

【今後の展望】

本研究により親子つながるシートの一定の効果が実証されたため、今後は本シートの周知や普及を図り、静岡県の家庭教育の振興へとつなげていく予定である。また、小学校4年生～6年生や中学生など、子どもの年齢層による効果の違いや、子ども自身を対象に効果検証することも必要である。